

平成 2 8 年度

【1】

題名	ぼくのお父さん
本人氏名	中村 颯 (なかむら そう)
性別	男
年齢	7
受賞者との続柄	子
<p>ぼくのお父さんは、どうろのいろいろなこうじをするおしごとをしています。</p> <p>まいにち、ぼくがあさおきるときには、もういえを出ておしごとにむかっています。おしごとがいそがしいときは、ぼくがごはんをたべてしまってからかえってくるときもあります。ときどき、日よう日もおしごとになって、すこしがっかりするときもあります。でも、ぼくはお父さんがおしごとになってあそべなくなっても、いやだとかわがままはいけません。それは、お父さんがしているしごとが、かっこいいとおもうからです。</p> <p>お父さんと車ででかけたときに、どうろにひいてある白やきいろのせんを見て、「このせんは、お父さんがひいたせんだよ。」と、おしえてくれました。みんながあるいたり、車で走ったりするのにぜったいひつようなどうろのせんを、ぼくのお父さんがひいたんだと、みんなにじまんしたい気持ちになりました。ぼくのお父さんのおしごとは、みんなにとって、なくてはならないおしごとなんだとわかりました。</p> <p>ぼくも大人になったら、みんなのやくに立つお父さんみたいなおしごとをしたいとおもいます。</p> <p>ヘルメットをかぶって、どうろや、どうろのせんとおなじよごれがついたふくをきて、あせのにおいがするお父さんはさいこうにかっこいいです。</p>	

【2】

題名	ぼくのお父さん
本人氏名	伊東 知聖 (いとう ちさと)
性別	男
年齢	8
受賞者との続柄	子
<p>ぼくのおとうさんは、てっきんのおしごとをしています。朝早くからおしごとに行き、がんばっています。何回か、お父さんのしごとばにつれていってもらったこともあります。大きなクレーンがいっぱいごいていて、とっても高いところまであがっていました。そして、とても長いてつのぼうがいっぱいあって、すこしこわいなあと思いました。でも、マンションなどになっていくんだなあと思うとワクワクします。そういうおしごとをしているお父さんは、かっこいいです。ヘルメットをかぶっているお父さんも大すきです。夜もおそくて、あさも早いから、お父さんとあそぶ時間があまりないけれど、休みの時には、サッカーをしてくれたりいろいろなところにも、つれていってくれます。ぼくたちのために、まい日がんばっているお父さんは、ぼくの中で一ばんです。</p> <p>でも、大きなクレーンやきかいがあるし、高いところにもいるので、けがをしないかしんばいです。けがをしないように、気をつけてね。</p> <p>そしてぼくが大きくなったら、お父さんみたいに、いっしょうけんめいしごとをして、かっこいいおとなになりたいです。ぼくの大すきなお父さん、これからもおしごとをがんばってね。いつもぼく、ももちゃん、ままもおうえんしています。</p>	

【3】

題名	僕のお父さん
本人氏名	樋口 蒼太 (ひぐち そうた)
性別	男
年齢	9
受賞者との続柄	子

ぼくのお父さんは、大工さんです。

お父さんが帰ってくると木のかおりがするのですぐ分かります。お父さんは、りょう理でつかうほうちょうをといでくれます。お母さんは、いつもよろこんでいます。お父さんは、ぼくがやっている「剣道」をおうえんしてくれます。

ぼくの弟が生まれたころに、お父さんと、おじいちゃんとおじいちゃんの友だちでウッドデッキとその上にやねを作ってくれました。夏にウッドデッキでバーベキューをすると楽しいです。今年、自てん車の車庫を作ってくれました。今までは、自てん車にカバーをかけるのが大へんだったけど車庫のおかげでらくになりました。次は、どんな物が家にできるか楽しみです。

ぼくは、一回だけ、お父さんのげん場を見たことがあります。クレーンがものすごく大きくてビックリしました。これからお父さんがどんな家を作るのかを楽しみにしています。

そしてお父さんをこれからもおうえんしたいです。

【4】

題名	わたしのお父さん
本人氏名	阿部 愛美莉（あべ えみり）
性別	女
年齢	9
受賞者との続柄	子
<p>わたしのお父さんは、大工のおしごとをしています。夏休みに会社にあそびにいったりすると、大きい木やみたことのないショベルカーがあります。ざいりょうおきばには、たくさんあぶないざいりょうもあったりして、こわいなあと思いました。</p> <p>日曜日にかぞくでドライブにいったとき、お父さんのつくったたてもののよこをとおったときにすごい大きいたてものでビックリしました。お父さんは、毎日朝6時前には、おしごとに行きます。休みは、日曜日しかありません。あまりいっしょにいれなくてさみしいときもあるけれど、たまにりょこうにつれてってくれます。お父さんは、わたしたちかぞくのためにいっしょうけんめいはたらいています。</p> <p>そんなお父さんは、すごいなと思いそんけいしています。</p>	

【5】

題名	お父さんへ
本人氏名	細山 愛笑 (ほそやま あみ)
性別	女
年齢	9
受賞者との続柄	子
<p>私のお父さんは電気工事士です。毎日、朝早くに家を出て夜中に帰ってくるので、なかなか会えません。</p> <p>でも、お父さんが休みの日曜日には、私の行きたい所へつれていってくれます。</p> <p>夏休みには、おじいちゃんおばあちゃんも一緒にキャンプにも連れて行ってくれました。</p> <p>私はお父さんが大好きです。なので、体に気をつけてお仕事をがんばってほしいです。</p> <p>でも、甘いものはたべすぎないようにしてね。お父さん長生きしてください。</p>	

【6】

題名	お父さんのお仕事
本人氏名	岡野 夏実 (おかの なつみ)
性別	女
年齢	10
受賞者との続柄	子
<p>私のお父さんは、建物を作っている仕事をしています。その中でも、部屋を明るくしたり、あたたかくする電気工事という仕事をしています。私が、「電柱にのぼるの？」と聞くと、「たまにね。」と言っていました。いつもは部屋の中に明かりをつけたり、スイッチやコンセントを付けたりしているそうです。建物のほとんどのものは、電気がなくては動かないそうなので、電気をあげるお父さんはすごいと思います。でも、仕事のじゅんばんを間違えるとケガをしたり、死んでしまうこともあるそうです。それをきいたとき私は、ぜったいにケガしないでね。気をつけてね。と思いました。お父さんは家では、ろうかの電球が切れて、くらくなっても直してくれるので、弟も妹も安心してトイレに行くことができます。お父さんありがとう。お仕事でも、私たちのように、こまっている人を助けているお父さんは、とてもすごいと思います。</p>	

【7】

題名	ぼくのお父さん
本人氏名	三村 真（みむら まこと）
性別	男
年齢	13
受賞者との続柄	子
<p>ぼくのお父さんは、主に山で大きくて重たい機械を使って穴をほっています。その穴に鉄筋を入れてセメントを入れて、山をくずれないようにしているそうです。その大きくて重たい機械は、写真でしか見たことがないけど、見た時に「カッコいいな。」と思ったし、いつかはぼくもその機械を使ってみたいと思いました。</p> <p>ぼくの友達のお父さんには、ぼくのお父さんと同じ仕事をしている人がいないので、お父さんの仕事の話をする、「すごいなあ。」とか、「カッコいいなあ。」と言われるので、ぼくは、うれしい気持ちになります。ぼくが大きくなったら、お父さんと同じ仕事をしたいと思っているので、今からたくさんお父さんに、仕事の話をしてもらって、いろんなことを教えてもらいたいと思っています。ぼくにとってお父さんは、友達に自まんでできるお父さんです。</p>	

【8】

題名	僕のお父さん
本人氏名	小笠原 悠人（おがさわら ゆうと）
性別	男
年齢	13
受賞者との続柄	子
<p>僕のお父さんの仕事は、病院や学校などコンクリートで出来てるカベなどからテストピースと言われるコンクリートのかたまりを採取して耐震強度などを調査したり、耐震補強する仕事です。他にも、コンクリートの壁などを解体したり、コンクリートの床などに、水道管などを通す穴をあけたりする仕事をしています。</p> <p>お父さんは、いつでも忙しそうです。土曜、日曜、祝日とかの休日も仕事で、少し寂しいです。でも、仕事が休みの日は買い物や美味しい物を食べに連れて行ってくれるのでうれしいです。</p> <p>最近は少なくなりましたが、小学生の時に出張で三日か四日、長くて一ヶ月帰ってこれない時がありました。でも、嫌な顔ひとつも見せず、出張に行くお父さんを見て「お父さんは偉いなあ。僕だったら出来ないのになあ。」と思いました。</p> <p>いつか就職したらお父さんのように人の役に立つ仕事につきたいです。</p>	

【9】

題名	私から見たお父さんの仕事
本人氏名	深沢 萌香（ふかさわ ほのか）
性別	女
年齢	13
受賞者との続柄	子
<p>私のお父さんはマルミで働いています。マルミは、丸美建設工業といいます。お母さんもお父さんもマルミと言っています。マルミは道路を作っています。ほそうをする会社です。</p> <p>お父さんはいつも「あ～おわったおわった～」と帰ってきます。時々とても臭い時がありますが、ほせつの日でアスファルトのにおいだそうです。</p> <p>雪が降った日に、お母さんと買い物に行く途中で、マルミの機械に乗っているお父さんを見ました。お父さんはとても真剣な顔で雪かきをしていました。「雪かきもするんだ？」とお母さんに言うと「普段は道をほそうするのが仕事なんだけど、雪が降ると道が通れないから、みんなが使えるように急いで雪かきしてるのよ。」と言いました。</p> <p>その日は夜遅くに帰ってきました。いつもみたいに「あ～おわったおわった～」と言わなかったのが、私が「あ～おわったおわった～は？」と言うと、お父さんは「まだ終わってないんだ」と言いました。お父さんは「明日も雪かきをしないとまだまだ通れん所がたくさんあるんだ」と言って、はやく寝てしまいました。そして、次の日も朝早くに雪かきに行きました。</p> <p>いつも夏の暑い時も冬の寒い時も雪が降っている時も会社に行くので、大変だなと思います。外で一生懸命に働いているお父さんは強いと思います。これからもお仕事をたくさんがんばってください。私も勉強をたくさんがんばります。</p>	

【10】

題名	私の叔父さん
本人氏名	鈴木 愛菜 (すずき まな)
性別	女
年齢	14
受賞者との続柄	姪
<p>私の叔父さんはガラス工事をしています。親戚のみんなと一緒に旅行をした時に美術館に行ったのですが、そこで叔父さんが「ここの工事に来たんだよ。」と言って、美術館を回りながら、はめたガラスの説明をしてくれました。その美術館はきれいな建物で、入り口にある大きなガラスからは、日の光がたくさん入っていました。飾られている美術品も良かったです。叔父さんが工事したガラスも、美術品に負けないくらいきれいで、美術館の大切な一部となっていました。</p> <p>美術館のほかに、私が買い物や食事で行ったことのある場所でも、叔父さんが工事した建物がたくさんあることを教えてもらいました。それを聞いてから、叔父さんが頑張って工事した建物だと思いと、買い物や食事を楽しむのはもちろん、それらの建物がどんな感じなのだろうかと興味をもって見るようになりました。</p> <p>私はその中でも、天井が高く壁の一面がガラスになっているカフェがお気に入りです。おっしゃれで明るいカフェは何時間でも居たい気分になります。</p> <p>叔父さんのガラス工事の仕事は、完成した建物の中の人や物に良い影響を与える大切な仕事なのだと感じました。私も大人になったら、叔父さんのように、みんなの役に立つ仕事につきたいと思います。</p>	

【11】

題名	僕の父
本人氏名	安田 郁哉（やすだ ふみや）
性別	男
年齢	14
受賞者との続柄	子
<p>僕の父は建設業に従事していて、家を建てる仕事とみんなの業務がうまくまわるように手配や管理をしています。土、日も仕事の日が多く、雨でも風でも関係なく、毎日夜遅くまでがんばっているの でご飯と一緒に食べる日も少なく、正直寂しい時があります。</p> <p>でも、父がこうやってがんばってくれているおかげで、僕はクラブチームで大好きなサッカーをや らせてもらえたり、塾にも行かせてもらえてると思います。そんな父には感謝の気持ちでいっぱい です。</p> <p>幼稚園の頃は、父の現場が家の近くであると、母と妹と一緒に、父の仕事をしている姿を見に行っ たりもしていました。高い所を軽々とスタスタ歩き、ヘルメットをかぶって汗まみれになりながら一 生懸命働いている姿は、とてもカッコよくあこがれの存在でした。一緒に遊んでほしい時もたくさん ありましたが、こうやって父が一生懸命働くことで、素敵な家がたくさんでき、いろいろな人たちを 笑顔にしていると思うと嬉しくなります。父はこの笑顔のために、日々がんばっていると思うと尊敬 いたします。</p> <p>僕も将来、何の仕事に就くかわかりませんが、人を笑顔にし、みんなから喜んでもらえる仕事をし たいと思います。そしてみんなからカッコいいなと思ってもらえるようにがんばりたいです。</p>	

【12】

題名	お父さんの仕事について思ったこと
本人氏名	梶原 連太郎（かじわら れんたろう）
性別	男
年齢	14
受賞者との続柄	子
<p>まず、建設業とは、建築物や土木施設などを造ることです。朝でも夜でも、そのような仕事をしている人達を街中でよく見かけます。暑いときも寒いときも、そして、重い物を持ったりするという場合もよく見かけます。</p> <p>僕はまだ幼い頃から「お父さんの仕事」というものにすごく興味がありました。周りから見ていて、建設業の醍醐味は、たくさんの重機を使い、僕たちが生活しやすいように、また地域を守るための仕事だということです。僕は主に、重機が好きになり、近くの工事現場に足を運んだりしていました。お父さんのいる工事現場には、家から少し遠かったので、それほど多くはいけませんでしたが、工事現場に一日中居たいと思っていました。おそらく、工事現場や道路で走っているダンプカーなどの重機が好きな子供たちは他にも多いと思います。僕の幼い頃の気持ちからすれば、建設業という仕事は夢でした。今ではより理解を深め、設計図どおりに、そして日程どおりに工事を進めて完成していることはすごいと思います。</p> <p>僕達が普段、何げなく通っている道路、何げなく利用している建物、そして、古くなったときの強化など、お父さんがやっている建設技能者の苦勞により安心して安全な街づくりが成り立っているのだと思います。そのようなことに感謝の気持ちを持ちたいです。また、工事現場でよく見る、「安全第一」という言葉のとおり、建設技能者の方には、気をつけて工事を行ってほしいです。</p>	

【13】

題名	光と影
本人氏名	川和田 悠太（かわわだ ゆうた）
性別	男
年齢	15
受賞者との続柄	子
<p>「パチッ。」</p> <p>今、電気が点いた。今の時代電気が無い生活はほぼ出来ないと言っても過言ではない。普段何気なく使っている電気はどの様にして自分達の所にやって来ているのだろう。</p> <p>父はマンションの電気の配線や、ビルなどの大きい建物の電気を通したりしている。時にはディズニーリゾートに行って電気の点検などもしている。一番驚いたのは、建設の仕事にも少し携わっているということ。自分は電気に関する事だけの仕事をしていると思っていた。確かに主は電気の仕事だけど、配線管にペンキで色を塗ったり、ビスでボードをもんだり釘を叩いて入れたりもしている。あまり詳しくないし、ちょっと解らない事だらけだけど、色々な仕事をしているんだと言う事は分かった。自分がお父さんの仕事で一番興味深くなったのは、ディズニーリゾートでの仕事です。自分もディズニーには何度か行った事があるし、結構秘密が多いから余計に知りたくなりました。ディズニーでは修理をしたり、イベントで使う電気を送る仕事などをしているそうで、もちろん閉園からの作業のため、夜遅くて寒い中仕事をしているそうです。僕はそんな父が誇りに思うし、逞しいと思います。</p> <p>電気はこれからも進歩し続けていく。その中で電気と上手に生活していかななくてはならない。当たり前のように使っている電気が無くなってしまふとあの震災の時の計画停電のような事になってしまう。電気関係で働いている父は、光のようで影で活躍している。その影で頑張っている父を一生懸命応援したいと思います。</p>	

【14】

題名	いつも頑張っている父へ
本人氏名	竹岡 来未 (たけおか くるみ)
性別	女
年齢	15
受賞者との続柄	子
<p>私の父は、橋梁工事や学校の耐震補強の仕事をしています。といっても父がどんな内容の仕事をしているのか私は全く興味がありませんでした。そして、父は家にいることがほとんどなく、単身赴任生活をし、週末だけ家に帰ってきて、私と妹が習っているバトントワリングの送迎をしてくれています。父は、筋肉体型で夏は真っ黒に日に焼け、冬は体中しもやけだらけになり、私はそんな父を恥ずかしく思っていました。</p> <p>ある日の週末、私と妹はいつものように、父に車で習い事へ連れて行ってもらう時のことです。いつも通っている橋の上で父は、「この橋は、お父さん達が作ったんよ。」と言いました。私達が当たり前のように通っている橋ですが、いつも沢山の人が通っています。そんな橋を父が作ったんだと思うと、少し父を誇らしく思いました。</p> <p>また、ついこの間まで私の通っている学校の耐震工事が行われていました。工事中私は恥ずかしいので真っ黒に日焼けした父に、学校で会いたくないと思っていました。しかし、何度かばったり父に会ってしまい、手を振る父に、私は素っ気ない態度をとってしまいました。やがて工事も終わり、担任の先生が「今も世界中で震災が相次ぎ心配ですが、この学校も耐震工事が終わったので安心です。暑い時も頑張って工事をして下さった方々に感謝しましょう。」と言われました。私は父に素っ気ない態度をとってしまったことを思い出し、反省しました。夜、私は父に「耐震工事お疲れ様。」と言い、食後にコーヒーを入れてあげました。父は笑顔で「ありがとう」と言い、私の入れたコーヒーを飲みました。</p> <p>私は以前まで父を人に見られたくないと思っていましたが、今では沢山の人のために頑張って、真っ黒に日焼けした父をみんなに自慢したいと思うようになりました。</p> <p>“お父さんいつもありがとう。これからも沢山の人のために頑張ってください。”</p>	

【15】

題名	僕のおばちゃんはカッコいい
本人氏名	中西 拓海（なかにし たくみ）
性別	男
年齢	15
受賞者との続柄	甥
<p>僕のおばちゃんは、建設工事の地盤改良、補修、修理系の現場監督をしています。とは言っても、実際にどのような仕事をしているのかというと、聞いて得た知識程度のことしかわかりません。実際の現場をまだ見たことがありません。おばちゃん自身も仕事の話をしてくれるのは、僕がガキで小さかったためにごく最近からであり、しかも、すぐに会えるような身近な存在でもないので、インタビュー等も難しいところでした。</p> <p>僕の家族は鳥取県に住んでいるために年に1～2回しか会わないおばちゃんと昨年11月に名古屋で会いました。それは僕の姉の結婚式だったからです。その日は久しぶりに親戚が集まり、夜遅くまで皆で飲んだり食べたりしました。ホテルに帰りながら夜中の道を散歩していると、おばちゃんが思いつき笑顔でいろんな話をしてくれました。仕事の魅力や小、中、高校の思い出、僕の亡くなったおばあちゃんの若い頃の話など面白いことを沢山話してくれました。その途中、歩いていた歩道橋周辺を指さしながら『きっと来年はここを補修するんだろうな』と寒い中、白い息を出しながら言ったのをよく覚えています。僕には何の変哲も無い普通の歩道でしかない道でしたが、おばちゃんにはおばちゃんの仕事から分かる鋭い感覚があることが分かり、ハッとしました。きっとそのため息が、おばちゃんの現場監督としての充実感を表しているのだなど、僕は思いました。</p> <p>母から「今でこそ『ドボジョ（土木女）』といって土木系に就職する女性が注目を集め始めたけれど、英ちゃん（おばちゃん）はそのはしりだ。」と言っていました。僕の名前の「拓」には土地を切り開いていくという意味があります。新しい分野での仕事を切り開いていったおばちゃんは、実はすごかったのだと中学2年生になった僕は理解し実感しています。今は部活などが忙しく中々時間がとれませんが、おばちゃんが実際に働く姿を見たいと思います。僕も新しい事を切り開いていくような仕事に興味がわいてきました。</p> <p>おばちゃんは、すごく人付き合いも良く、おしゃべりも面白くて、仕事のできる、自慢の『僕のおばちゃん』です。願わくは、今度はおばちゃんの結婚式に出席したいです。</p>	

【16】

題名	ぼくのおじさんの仕事
本人氏名	櫻井 晴斗（さくらい はると）
性別	男
年齢	16
受賞者との続柄	甥
<p>僕のおじさんとお父さんは、兄弟で同じ建設会社共立建設と言う会社に勤めています。おじさんは現場監督さんで、お父さんはおじさんの下でいつも重機の運転をしています。いつも朝早く家を出て会社から遠くはなれた現場に通勤して毎日大変だなと思います。おじさんが測量して、お父さんが穴を掘って型枠を組み立てコンクリートを流し込んで、おじさんがたくさんの職人さんに工事の説明をして、少しずつ建物の形ができてきます。たくさんの職人のリーダーになって皆が使う物を作っているのは、すごいなと思いました。僕も工作や技術科目が好きなのでおじさんやお父さんを見ていると物を作る仕事ができたらいいなと思います。いつも高い所や地下の穴の中で仕事をしているので、あぶない仕事なんだけど、おじさんは、規則やルールを間違えなければ、安全なんだよと言ってへっちゃらそうで、頼もしいです。これからも、ケガをしないように皆が利用する建物をたくさん作って欲しいと思います。工事の仕事がんばってください。</p>	

【17】

題名	父と仕事
本人氏名	守田 周平（もりた しゅうへい）
性別	男
年齢	17
受賞者との続柄	子
<p>僕の父は、建設技能者をしています。</p> <p>建設技能者の仕事として、クレーンやトラックなどの大型車の運転もします。小さい頃には、父の運転していたトラックに何度か乗ったことがあります。外から見る姿と隣に座って父を見たときにかっこいいと感じました。トラックは普通車と違い、高さもあり、大きさも全然違います。それを乗りこなす父を見て、小さい頃とても憧れました。しかし、建設技能者という仕事は聞いたことはあってもどのような事をするのかは小さい頃は知らなかった。それに父は出張に行くことが多く大変そうでした。前には何回か骨を折った人がいるという話を父から聞いたとき改めて父の仕事は危険でいつ事故にあうかも分からない仕事だと思いました。</p> <p>しかし、それでも僕はこれまで家族を支えてきた父親を尊敬していると同時に建設技能者としての父も誇りに思います。そして、もっと建設技能職がメジャーになればいいなと思います。</p>	

【18】

題名	仮囲いの中の熱い思い
本人氏名	鈴木 雄貴（すずき ゆうき）
性別	男
年齢	16
受賞者との続柄	子
<p>みなさんの身の回りの建物を見てください。民家、学校、オフィスビル、スーパーマーケット、ショッピングモールなど、様々な建物があります。これを作り上げているのは建設業の方々です。しかし、普段何気なく使っている建物の裏には建てるまでの苦労があります。</p> <p>建設業とは、簡単な仕事ではありません。なぜなら、その作業をする環境は、夏は暑く、冬は寒くそれにとってもきつい仕事で、命の危険もあるからです。しかし、誰かがやらなければ、建物は建ちません。そのため私は、父親のしている建設業という仕事を誇りに思っています。それでは、建物が建ってゆくまでの過程を見てみましょう。最初は、何もない所から作られていきます。次に、設計図を基に、それぞれの専門家が集まり、技術を出し合い、連携して作られていきます。設計では、構造計算などの安全性、装飾のバランスなど、様々な事が考慮されています。最後に、お客様に納得してもらえるように仕上げをして、終わりです。これからわかるように、建物は何もない更地から作られていき、色々な人の知恵と技術が詰まったもので、一つとして同じものはないという素晴らしいものだと思います。また、自分の作ったものが地図に残るというのは、何よりも達成感があるものだと思います。このように、建設業は辛い反面、達成感をえられる仕事でもあるのです。</p> <p>私が思うに、日本一の手作り産業がこの建設業だと思います。私の父が携わるポジションは、最終仕上げの工種と聞いています。父はよく、建物を人に例えると、最初の工種が骨格を作り、コンクリートで、肉付けをして、設備の工種が血や神経を通わせ様々な細かいパーツを取り付けて、最後に仕上げの工種が、お化粧を施し、世に送り出すと言っています。建物は、数多くの専門家達の連携で出来上がり、全ての建物は、技術の塊であると自負しているそうです。私はこれらの話を聞いて、普段は囲われていて見えない中で行われている仕事が、どれだけ熱いものか感じる事ができました。また、このような機会を通して、建設業の素晴らしさや、建設過程をよく知ることができました。そして、父親の仕事を誇りに思いました。</p> <p>追伸、この件を受けて父が妹に質問をしていた話。</p> <p>父「アキちゃん、建設現場ってどう思う？」</p> <p>妹「え、えっ…だって見えないじゃん！」</p>	

【19】

題名	現場監督として働く父を誇りに思うこと
本人氏名	山本 真緒 (やまもと まお)
性別	女
年齢	17
受賞者との続柄	子
<p>私の父の仕事は現場監督です。ビルなどの建物の工事現場の監督さんです。幼稚園の時に弟と一緒に父が働く工事現場に連れて行ってもらい、作業員さんと一緒にラジオ体操をした記憶があります。ヘルメットが大きすぎて顔の半分くらい隠れて前が見えなかった事を覚えています。体操が終わると父は大勢の作業員の方々に説明をしていました。その日の仕事の指示をしていたようです。父が働く姿を見たのはそれが最初で最後ですが、今になって思うと、一度でも父が働く姿を見ることが出来て良かったと思います。私も高校生になってラーメン屋さんのアルバイトを始めたのですが、働く事の大変さを少し感じているところです。お客さんの接客が大変でトラブルもあります。父は家で仕事の話をする事がほとんど有りませんが、色々と大変なこともあったんだろうかと思います。</p> <p>テレビのニュースで工事現場で人が亡くなったりする事故の報道をみることがあります。人の命を預かる仕事としてとらえれば、工事現場の仕事は危険を伴う「楽しい」といえる仕事ではないと思いますが、人の命を守り、人の幸せな生活を築く為の立派な仕事だと感じています。その仕事をする大勢の人を指揮する父を誇りに思います。</p> <p>高校生になってから、父にお弁当を作っています。父が仕事に出かける時間は早くて大変ですが、これからも作ろうと思います。父には元気で、がんばって仕事をしてほしいので、私もがんばろうと思います。ファイト！</p>	

【20】

題名	私のお母さん
本人氏名	安田 瑠香 (やすだ るか)
性別	女
年齢	17
受賞者との続柄	子
<p>私は、お母さんに電気工事についての話をよく聞きます。いつも「今日も疲れた」と言って、帰ってくるお母さんに私は、「何したん？」とよく質問します。そうするとお母さんは難しい言葉をたくさんならべて私に話します。正直なことをいうと私は、お母さんが何を話しているのかまったくわかりません。しかし、仕事をとてがんばっているんだなあとすごく伝わってきます。電気工事の仕事は、高い所での作業、危険な所での作業、重い物を持つ作業、細かい作業などのさまざまな作業があるそうです。私はそれを聞いて電気工事の仕事は大変なんだなあと思いました。</p> <p>また、誰でもできるような仕事ではないのだと思いました。私は、高い所も苦手で、とても不器用なので細かい作業をするにも難しいことだと思います。だから、電気工事をしている人はすごいし、カッコいいと思いました。</p> <p>お母さんは、高校を卒業してから二十年間電気工事の仕事が続けています。その中で電気工事士の資格を取るための勉強をその資格も取ることができたそうです。資格を取るために仕事から帰ってきて夜遅くまで勉強して取ることができたと言っていました。</p> <p>また、建設業は、男性が多い職業なのですが、お母さんはその中でずっと働いています。男性ならば重い物も簡単に持てたりするけど、お母さんはがんばって物を持って運んだりしていると聞いて、すごいなあと思いました。私も、将来、仕事をするようになったら、お母さんのように二十年間も仕事を続けられるような、そんな仕事に就きたいです。そして、どんな状況でもあきらめずに精一杯、がんばり、お母さんのようになりたいと思いました。</p>	

【21】

題名	わたしの父の仕事
本人氏名	寺田 雄輝 (てらだ ゆうき)
性別	男
年齢	18
受賞者との続柄	子
<p>私の父は橋を造る仕事をしています。しかし、私はその姿を見たことはありません。何故なら、父の職場は家から通える距離ではなく、いつも遠く離れた場所で働いています。いつも単身赴任で、私達家族と会えるのは週末だけです。雨の日も雪の日も働いているようで、どうしてそんなに頑張れるのかと聞いたところ、「家族には会えないし、難しい作業も多く、特に安全には気を遣って大変だ。しかし、造った橋は形として残るし、達成感のあるやりがいのある仕事だ。母さんやお前達にも寂しい思いをさせているが、父として誇りある仕事をしているつもりだ。」父とは今までこんな話をしたことはなく、この作文のために聞き出して、お互い照れてしまったが、私ももうすぐ高校を卒業し、社会人となって働くこととなります。将来、自分の子どもから同じように尋ねられたとき、父のように誇りを持てるやりがいのある仕事に携わっていいと思いました。</p>	